

最上小国川清流未来ニュース

令和元年 11月28日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第17号

おもてなしの
心で癒す

目標：地域の観光
者数 150万人を目
指す。

- 1 物販及び情報発信施設新設の検討
- 2 流水型ダム周辺整備
- 3 月楯橋・満沢橋付近での駐車場と進入路の整備
- 4 遊歩道の整備
- 5 共同浴場とふかし湯の整備
- 6 歴史的な赤倉温泉街の継承・発展

- 7 温泉地等の魅力向上の推進
- 8 「川の駅」でのイベント開催
- 9 親水空間創出の推進（向町）
- 10 親水空間創出の推進（舟形）
- 11 親水空間創出の推進（瀬見）
- 川床の茶屋設置方策の検討
- イベントの連携検討

：平成30年度まで完了

裏面で紹介

特集 最上小国川流域の振興に向けた取り組み

下の図は、平成27年4月に策定した「最上小国川清流未来振興計画」です。この計画に基づいて、現在、様々な取り組みが進んでいます。

最上小国川清流未来ニュースでは、こうした取り組みの動きについて、毎号、ご紹介していきます。

今回は、その中から3つの取り組みについてご紹介します。

※アユは最上小国川
全川で放流

- アユ
- ヤマメ
- イワナ
- サクラマス



- 凡例
- 印：地域の将来像を実現するための施策
 - 印・番号なし：全域、全川が対象の施策
 - ◎ 印：複数箇所を実施する施策の代表箇所

清流を守り・育て・活かす

目標：アユの放流量と漁獲量 50%増を目指す。

- **アユ等の放流** ← 裏面で紹介
- 1 アユ放流事業への支援
- 2 水源井戸の整備
- 3 アユ中間育成とサケのふ化場の併用施設整備
- 4 サケふ化施設の遊休期間を活用したアユ種苗生産の増大
- 5 中間育成技術の継承と人材確保・育成
- 6 環境モニタリング
- 7 魚道改修・修繕の検討・実施（一部完成）
- 8 河川工事における環境対策
- 9 計画的な保安林の指定
- 10 水辺林、溪畔林の整備
- 11 合併浄化槽の整備
- 農薬等の低減
- 間伐材の搬出・主伐後の再造林
- 河道・森林整備の促進
- アユの生息に配慮した河道整備



先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川



- 川を知り
川に親しむ
- 目標：中学生以下の最上小国川のイベント参加者数 年間8,000人を目指す。
- 1 アユ釣り大会の開催
 - 2 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
 - 3 イワナ、サクラマス等の産卵場造成
 - 4 遊漁券の販売促進
 - 5 ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用促進
 - 6 釣り場のアクセス改善
 - 7 最上小国川鮎釣り甲子園大会の開催
 - イベントの連携協定



7 魚道の改修 瀬見発電所 頭首工 最上町 大堀

地元ブランドで活性化

目標：雇用の確保につながるブランド品の創出3品目をを目指す。

- 6次産業化の推進（アユ加工品等の開発支援）
- 地域ブランド商品の開発
- 木質バイオマスの利活用の推進



最上小国川流水型ダム

治水や治山で 自然と共存する

目標：50年に1度の洪水を安全に流せるようにする。

- 1 **最上小国川流水型ダム整備** ← 裏面で紹介
- 2 河川整備（長沢・舟形地内）
- 3 河川整備（大堀地内）
- 4 **赤倉地区内水対策（一部完成）**
- 5 河川情報の提供（ライブカメラ設置）
- 6 河川環境の創出（赤倉地区）
- 河川の効果的な維持管理
- 防災意識向上の推進
- 水位等の河川情報の提供
- 克雪対策の推進
- 河床低下防止と河川施設の保護

5 共同浴場とふかし湯の整備（せみの湯） 最上町 瀬見



3 アユ中間施設育成とサケふ化場の併用施設整備 舟形町 舟形

地域の「顔」、「誇り」となる水辺空間を目指して

最上小国川かわまちづくり

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取組みの中から「親水空間創出の推進」について紹介します。

○かわまちづくり制度とは…

河川と河川に繋がるまちを活性化するため、地域の歴史・文化や観光資源などを生かし、河川空間とまち空間が融合した空間形成を目指すことを目的に、国土交通省が創設した制度です。「最上小国川かわまちづくり計画」では、最上小国川が流下する最上町と舟形町及び県、他関係機関が連携し、鮎や鮎釣りをテーマとした、河川空間を活用した賑いづくりの取組みを計画しています。(令和元年度～6年度まで)

○どんな水辺空間ができるの？

向町イベントゾーン …… 賑いづくりによる人々が集う河川空間の整備 (町立最上病院付近)

舟形イベントゾーン …… 散策やサイクリングに適した堤防道路の整備 (アユパーク舟形付近)

瀬見おもてなしゾーン … 高齢者や障がい者が容易に川面まで近づける通路整備 (川の駅ヤナ茶屋もがみ付近)

その他、鮎などの釣り客が河川まで近づきやすい堤防斜路 (スロープ) の整備や、魚類が遡上しやすくなる河道整備などにより最上小国川流域の交流人口拡大、賑いを目指していきます。(下部の写真はイメージです。)

●最上総合支庁建設部河川砂防課：0233-29-1410 最上町建設課、舟形町地域整備課



向町イベントゾーン (最上町)



舟形イベントゾーン (舟形町)



瀬見おもてなしゾーン (最上町)



堤防斜路 (スロープ)

大きく育て帰ってきてね



サクラマス・稚アユの放流事業

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取組みの中から「サクラマスの放流推進」について紹介します。

小国川漁業協同組合では県の魚である「サクラマス」を知ってもらい、サクラマス資源の増大を図るとともに漁場環境保全の重要性についての学習を通して、故郷の美しい自然に触れる事を目的として流域の子供たちと放流体験学習を実施しています。

今年6月20日(木)に小国川の支流である絹出川において、最上町立向町小学校3年生25名とサクラマス稚魚放流体験学習を行い、子供たちはバケツに入った稚魚(合計8,000尾)を大事そうに放流していました。



また、サクラマスだけではなく稚アユの放流体験も実施しており今年最上・舟形両町で4回、計40,000尾もの稚魚を最上小国川に放流しました。未来につなげていくために今後もこの放流体験を続けていきます。

●小国川漁業協同組合：0233-32-2892



(左) 向町小学校3年生25名によるサクラマス放流体験



(上) 舟形小学校2年生34名による稚アユ放流体験「元気に育ててね〜」(R1.5.30)



流水型ダムの建設状況



R1.10 ダム工事状況 (高さ41m)

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取組みに流水型ダム整備事業があります。今年度は、これまで堤体部の工事のために仮排水トンネルに流していた河川水を本川側に切り替え、トンネルの閉塞を行うとともに、ダム管理に必要な通信・警報・観測設備の整備も並行して進めています。トンネルの閉塞工事は、吐口(下流側)から中に入りダム堤体付近で作業を進めています。今後ダムの安全性について確認する試験湛水を実施し、ダムの安全性を認したうえで令和2年3月にダム本体が完成する予定です。流域住民の方々の安全・安心を一日も早く実現するよう事業を推進してまいります。



トンネル内の通路



ダム付近(排水路トンネル内維持放流管)作業箇所



ダム天端(地覆高欄コンクリート打設)

一流水型ダムとは一

通常は水を貯めず、ダムのない河川と同様に水が流れます。一方、洪水時には一時的にダムに水が貯められ、上流から流れくる水よりも下流へ流れる水量が少なくなるため、下流の洪水被害を防ぐことができます。

一最上小国川流水型ダム整備事業の概要一

- ・高さ 41m ・長さ 143m ・堤体コンクリート約 4万m³
- ・集水面積 37.4 km² ・総貯水容量 2,300,000m³ ・有効貯水容量 2,100,000m³

●最上小国川流水型ダム建設室：0233-29-1443

希望の春に思いはせ

最上川さくら回廊事業桜植樹式

10月26日(土)最上小国川流水型ダム周辺(県道最上小野田線脇)において、ダム周辺の環境整備の一環として「最上川さくら回廊事業桜植樹式」が開催されました。これは、最上川流域を桜並木でいっぱいにとしよう山形新聞、山形放送が提唱している事業です。富沢小学校5・6年生、富沢保育所の園児、赤倉町内会、向町婦人会等、総勢60名ほどが参加しました。

●最上町建設課：0233-43-2111



8本のオオヤマザクラの植樹が行われました!

【編集後記】今後も最上小国川清流未来振興計画に掲げた施策の取り組み状況を紹介していきます。また、最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、施策の取り組み状況や流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧下さい (<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>)。

【お問い合わせ先】最上小国川清流未来振興機構 (山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内)：0233-29-1240